

2020年度事業報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

特定非営利活動法人こども∞感ばにー

1.活動のまとめ

「子どもの笑顔が地域のなかで育まれるまちに」を理念に、(1)すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業「プレーパーク」「フリースクール」と、(2)子育てサポート事業、そして地域・民間団体との連携事業を進めていく予定でしたが、**新型コロナウイルス感染症により、活動の休止や制限を余儀なくされた一年でした。**

戸惑いも多い中、子どもにとって何が必要か、また、可能な限りの感染防止対策をした上で私たちにできる活動は何かを話し合い、時には他団体と情報交換しながら実施しました。

世界中が新型コロナウイルスと向き合い、共存していかなければならない「今」だからこそ、大切なことが見えたとも言えます。外出が制限され、各イベントも中止されるなか、**子どもが地域の中で思い切り遊べ、大人たちに見守られ、安心して過ごせる場所がどんなに大切なものか。**そしてそれが、子ども自身の力だけで訪れる距離にあり、選択肢となること。新型コロナウイルスが、改めてその大切さを気付かせてくれました。

また、発災から10年が経ち、これまでの活動を振り返る年でもありました。当初の震災課題から社会課題へと課題は少しずつ移り変わり、それと共に本会の活動も変化してきました。今年度の後半では、理事やスタッフとの話し合いを積み重ね、私たちの“存在意義”を可視化し、事業目的の共通認識のずれを修正しました。「**子どもの、声に出せない“しんどさ”をキャッチして軽減し、子どもの主体性と自由な心を守り育みます**（※使用言語の最終決定はまだできていません）」を私たちの“存在意義”として、次年度からの新たな出発点に足並み揃えることができたと感じています。

そして、これからも様々な社会課題に向き合い、活動を展開するための**組織基盤強化として、認定NPO法人化の申請**を行いました。申請に伴い、本会の会計や労務、規約等の見直しを図り、これまで以上に基盤を整えることができました。

震災から10年が経ち、大きな節目となった2020年度は、新たな一步を踏み出すための足元を固めた一年でした。

《重点目標》 ※2020年度事業計画より

①プレーパークのモデル化と発信

プレーパークわたのはは常設、鹿妻プレーパークは移動式のあそび場のモデル化を図り、子どもの遊びと居場所の必要性を石巻から全国に発信していく。

→石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会（以下石の会）として、子どもの居場所の必要性を石巻市に提案し、それと同時に本会としても石巻市とコミュニケーションを図った。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、中断したまま今年度は終了を迎えた。

②石巻市内に子どもの居場所を増やすための取り組み

石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会は、2027年までに「1中学校地区に1か所の居場所設置」目標に掲げ、住民の意識調査や行政との意見交換会などをおこなうとともに、住民主体のプレーパーク開設サポートをおこなう。

また、本会として2か所のプレーパーク開設サポートにより、年度内に住民主体のプレーパークを3か所誕生させる。

→新型コロナウイルス感染症拡大により活動を休止した。このため本会としては一回サポートするに終わった。（詳細は5P「新規プレーパーク開設サポート」参照）

③不登校児童生徒の居場所に関する取り組み

不登校率が全国一位の宮城県（石巻市も割合は上位）と、283名（2020年3月時点）の石巻市の不登校児童生徒の居場所事業に関する取り組みを、行政と協働で構築する。

宮城県とは、多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク（以下「みやネット」/県内7団体で構成）として、県教委や県議会議員と協働で取り組み、石巻市と市内の民間フリースクールと連携し行政との取り組みを始める。

→みやネットでは様々な活動を実施し、官民が連携して「不登校課題」を考える土台づくりをおこなった。（詳細は8P「多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク」参照）

→石巻の不登校ネットワーク（仮称）は、2021年度の本稼働に向けて準備をおこなった。（詳細は9P「石巻の不登校ネットワーク」参照）

2. 事業報告

(1)すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業

◆プレーパーク事業

●プレーパークわたのは

【目 標】

子どもの遊びの幅を広げ、子どものやりたいことを保障し、居場所としての機能を充実させるためにスタッフのスキル向上を図る。また、プレーパークに関わる大人（高校生以上）を増やす

- ・開催回数：145回
- ・利用者数：子ども延べ3,000名、大人1,500名 合計4,500名

【実施内容】

コロナウイルス感染症拡大により、4月から6月上旬まで活動を休止したが、スタッフは平常通り現場に出向き、整備を行いながら来所する子ども対応を実施した。

- ・開催日時：土・日曜日10：00－16：00、金曜日14：00-17：00
- ・開催数：131回
- ・スタッフ2名配置
- ・環境整備

こいのぼり設置(4月)

資材庫づくり (2月)

・イベント

泥んこまつり(7月) ※イベントとしての告知なし

竹フェンス作り(2月)

・地域連携

スプラトゥーン大会(8月)

黄金浜南地区ゴミ拾い参加(6回)

黄金浜県営団地側溝掃除(11月)

渡波小・中学校と子どもに関する情報交換(3回)

【成 果】

・来所数

子ども延2,231名(前年比－485名)、大人延798名(前年比－362名)、親子延327組

合計3,029名(前年比－847名)

・子ども

コロナウイルス感染症拡大による活動休止期間に来所する子どもの対応を行うことにより、学校休校や自粛による子どもが抱えるストレスの聴き役になることができた。

・地域住民

①子育て世代や高齢者の来所数は減少したが、畑や草刈り、未就学児との交流を楽しみに来所する高齢者にとっては、居場所機能を果たすことができた。

②遠方から(特に東松島市)の未就学児親子の来所が増えた。「子どもを思い切り遊ばせる場所がない」「話す相手がいない」という声が聞こえた。

・環境整備

こいのぼり：コロナ禍で生活自粛を強いられる住民や子どもから「こいのぼりを見て元気が出た」という声が聞こえた。

・イベント

①泥んこまつり：子どもの声を実現。雨の中でも続けるくらい熱中する姿から、コロナ禍で溜まったストレスが軽減されたように見えた。

②竹フェンスづくり：近隣住民からボールの使用により迷惑をかけていることから、子どもや地域住民とでつくり、ボール遊びについて考える良い機会となった。

・地域連携

①スプラトゥーン大会：渡中学区WWI主催の大会に伴い、プレわたで実践練習を実施。渡波中学校区の大人と、プレわたの子どもの交流の機会となった。

②黄金浜南地区ゴミ拾い：黄金浜地区住民との交流により、関係性を築くことができている。

③黄金浜県営団地側溝掃除：自治会、中学生ボランティア、県営住宅住民と協働で開催。本会がコーディネートし、地域住民同士や住民と中学生をつなぐ良い機会になった。

【来所者のエピソード】

・H君(小学4年生/男子)

秘密基地をたくさん作り、ターザンロープを作るなど、様々な遊びを発案する遊びの天才。彼の遊びが他の子どもの遊びを誘発することも多く、あそび場のガキ大将のような存在。

最近では父親もあそび場に訪れ、家族で秘密基地を改造している。

・S君（小学3年生/男子）

渡波小学校区から東松島に引っ越した後もプレわたに來所する本児は、プリキュアや女の子のものが好きで、その個性を受け入れてくれるスタッフやこの場所が安心できる居場所となっている。

【課題】

・地域との関係

焚火による洗濯物への臭い付着やボール遊びによる苦情が寄せられている。ボール遊びに関しては石巻市へも連絡が入り、当事者間で調整ができなかった。これは、これまでのコミュニケーション不足が要因と思われる。日頃の挨拶や会話ができる関係性づくりが必要である。

ボールの使用再開に向けて一緒に考えていきたい。

・人員の確保（ボランティア）

継続的に関わってくれるボランティア（特に女子）の確保が難しい。

●鹿妻プレーパーク“ひがこー”

【目標】

保護者とともにあそびの環境をつくり、地域（自治会）と連携しながら運営体制を構築する。子どもの遊びと居場所の必要性を地域住民に伝え、プレーパークの協力者を増やす。

・開催数：50回

・利用者数：子ども延1,500名、大人延375名、合計延1,875名

【実施内容】

コロナウイルス感染症拡大により、4月から6月上旬まで活動を休止（10回）し、その間は備品整理を実施した

・開催日時：水曜日 15：00－17：00

・開催数：40回

・体制：スタッフ2名配置

・環境整備：鹿妻東公園内に倉庫設置(6月/提供 BIG UP石巻)

・イベント：一日あそび場（12月、3月）

・地域連携：鹿妻小学校授業サポート「農村クラブ」（4回）

鹿妻小学校との子どもに関する情報交換

・広報：ひがこーポスター作成・掲示

【成果】

・来所数：子ども延1,005名(前年比－119名)、大人延169名(前年比－61名)、親子102組
合計1,674名(前年比－320名)

・環境整備：倉庫設置により遊具の設置数が増えた。これにより、遊びの幅が広がった。

また、これまで数回往復し運んでいた労力の削減につながった

・地域連携：小学校と家庭に課題を抱える子どもの情報共有をし、対応方針を決定した

【来所者のエピソード】

- ・コロナ禍で開催休止中も「いつから始まるの？」と、何度も聞きに事務所を訪れる子どもが多く、開催を心待ちにしている様子だった。
- ・N君（小学五年生/男子）
「ここ（ひがこー）にいると落ち着くんだよな…。みんなが楽しそうに遊んで、みんな笑って、平和だから。」と発言。家庭に課題を抱えているわけではないが、この子にとっても安心できる居場所になっている。
- ・鹿妻第二町内会長
「子ども達が楽しそうに遊ぶなら。」と、町内会長の自己負担で公園の砂場に砂を補充。プレーパークに対する理解だけでなく、会長自身の子どもへの思いやりが感じられた。

【課 題】

- ・倉庫内の整理整頓が行き届いていない

●新規プレーパーク開設サポート

【目 標】

市内に住民主体のプレーパークを増やすために、開設を希望する地域住民のサポートを行い、今年度末には、住民主体でプレーパーク実施を実現する

- ・開催地/開催数/来所人数
 沢田地区 6回、子ども大人延80名
 牡鹿地区 9回、子ども大人延120名

【実施内容】

コロナウイルス感染症拡大により、ほとんどの活動が停止

- ・沢田プレーパーク（スーパー森ランド）
 打合せ2回（11月）
 実施（12月）、来所数：子ども約20名、大人17名、親子11組以上
 ※3月に2回目を実施予定だったが、石巻市内で感染者各増加のため開催を中止

【成 果】

- ・「数か月振りに子どもを遊ばせた。公園には連れていけなかったけど、こうした森の中は第三者の目を気にせずに遊ばせられるから安心できる」という声が聞こえた。

【課 題】

- ・移動のびちびと合併し、窓口の統一化の必要性

◆フリースクール事業

●フリースクール“ぽはっく”

【目 標】

石巻市の不登校生徒全員に居場所がある状態にすることを5ヶ年計画に掲げ、本年度は渡波中学校区の不登校生徒全員に居場所がある状態にする。

つながりのある5校（3校+河南東中、石巻中）と連携体制を構築する。

- ・開催数：95回
- ・目標登録者数と来所人数 登録者数：16名(+新規4名) 平均利用人数：8名 延570名

【実施内容】

コロナウイルス感染症が拡大状況下において、感染リスクとステイホームによるリスクを比較し、ステイホームによる家庭内不和や虐待、生活リズムの崩壊などの方が大きいリスクと判断。感染防止対策を徹底し開催した。

- ・開催日時：毎週月・木曜日 10：00－16：00
- ・開催数：99回
- ・スタッフ3名、定期的なボランティア1名配置
- ・子ども対応：団欒、学習、料理、スポーツ、ものづくり、海遊び、畑作業など
受験生との個人面談や学習計画立案、面接練習を実施
- ・環境整備：サンルーフ屋根修繕(9月)
- ・イベント
 - 夜までぼはっく(10月)
 - ハロウィン企画(10月)
 - クリスマスパーティー(12月)
 - 合宿 2泊3日/加美町(3月)
- ・スタッフ間の処遇会議(月1回)
- ・地域(学校)連携：登録児の在籍校へ訪問し、個別の活動記録を提出(計38回)
子どもに関する情報交換やケース会議(2月)、受験のための連携
- ・保護者面談：延38回(11名)

【成 果】

- ・登録者数16名(新規4名)
- ・利用数：延べ416名
- ・子ども
 - ①高校進学4名
 - ②本会に登録し通所することで、家にひきこもり家族間の会話もなかった生徒が、明るくなり、家庭でも笑顔で会話も増えた
 - ③面談により、親子関係の不和と調整を行った結果、保護者の家庭内での子ども対応が変わり、子どもが自己受容と自分の将来を考える力を発揮できるようになった。
- ・環境整備：サンルーフの修繕により、子どもが過ごす空間が増えた
- ・地域(学校)連携
 - ①子どもや家族に関する情報交換を重ねることで、本会との信頼関係を構築できた学校が3校増えた(計5校)
 - ②ハロウィン企画では、地域住民や社会福祉協議会の協力と理解を深めることができた。鹿妻心のハウスでの畑利用に関して、自治会長がフリースクール活動を理解し行政に交渉してくれた。

③困難事例は、学校とのコミュニケーションを密にとりケース会議も開いた。これまで関係が希薄だった小学校との信頼関係を構築できた。

・保護者

①面談以外に、予約なしの電話相談対応を行うことで、保護者のストレスを軽減につながった

②子どもが学校に通えない、引きこもることへの不安を解消した

【来所者のエピソード】

・H君（中学二年生/男子）

学校に行けない自身を責め、「自分は家から出てはいけない。」と思っていた本児が登録。ありのままの本児を受け入れることで、家から出られるようになった。現在はフリースクールに欠かさず来所し、「やってみたい」と思った事に自ら挑戦するようになった。保護者は「ぼはっくに来所するようになって明るくなり、家での会話も増えた」と話す。

・Aさん（中学一年生/女子）

中学進学を機に学校へ復学した生徒が再び不登校になり、再度本会に来所し始めた。本児にとってフリースクールが安心できる居場所であり続けたため、自身で選択して通い始めることができた。

【課題】

- ・より多くの不登校児が居場所に出会うためのフリースクール周知
- ・来所人数を増やすためのボランティア受け入れ
- ・開催回数を増やす必要があるが、資金不足により実現ができない

◆地域・民間団体との連携事業

●石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会

【目標】

7年後までに、石巻市内13か所の子どもの居場所（児童館、プレーパーク）設置を目標に、構成団体や地域住民と連携して、新規プレーパーク開設サポートを行う。

これと同時に、まちづくり懇談会では“移動式プレーパーク事業と放課後子ども教室の一体型居場所づくり”を提案し、子どもの居場所を増やす取り組みを行う。

【実施内容】

- ・定例会議 7回（事業計画や事業の振り返りなど）
- ・子どもの遊びに関する座談会(6月)
- ・プレーパーク意識調査実施（プレわた、移動のびちび）
- ・プレイワーク講座（11月/2日間）
- ・まちづくり懇談会で提案(8月)

提案内容：移動式プレーパーク事業と放課後子ども教室の一体型居場所づくり

【成果】

- ・あそび場利用者の意識調査で、大人が見守るあそび場と居場所の必要性がデータ化できた

【課題】

- ・意識調査実施人数が少ないため、次年度も引き続き継続し、信ぴょう性の高いデータ所得

●多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク

【目 標】

「教育機会確保法の理念を基に、宮城県内の民間の団体・教育委員会・行政などのネットワークを構築し、子どもが選択できる多様な居場所が保障される地域社会をつくる」を目的に、不登校支援団体が連携し、行政と協働を図るための体制づくりをおこなう。

【構成団体】

8団体：こども∞感ぱにー（石巻市）、Social Academy 寺子屋（大崎市）、フリースペースつなぎ（気仙沼市）、フリースペース道（大崎市）、ほっとスペースわか（登米市）、まきばフリースクール（栗原市）、ふふふはうす（仙台・村田町）、こころのテラス（新規/仙台市）

【実施内容】

- ・スタッフ2名配置
- ・定例会議13回確（事業計画、事業振り返り他）
- ・みやぎ子どもの居場所マップ作成（8月～11月）：掲載76団体、
- ・みやぎ不登校4000人アンケート調査（11月1日～7日）：回答163件
県知事、県教育委員長に提出。NHKにて報道。
- ・子どもたちの多様な学びと不登校施策シンポジウム（11月）：宮城県議会議員と共催
講演会「教育機会確保法について」講師：文部科学省 廣石孝氏
みやぎ居場所マップと4000人アンケート結果贈呈
- ・郡和子仙台市長、福田洋之教育長訪問・懇談（11月）
- ・村井県知事、伊東昭代県教育長訪問・意見交換と要望書提出（12月）

【成 果】

- ・県議会議員の不登校調査委員の積極的な動きとみやネットの活動が両輪で動くことで、宮城県に不登校の現状や官民連携の必要性を伝えることができた。また、昨年度の県議会議員から教育長への一般質問後、「不登校児童生徒への支援の在り方について」のマニュアルが、教育機会確保法を基に改訂された。
- ・みやぎ子どもの居場所マップ：発行1万部、配布箇所1,114か所、みやネットHP掲載
情報収集が困難で、不安と孤立の中で過ごす不登校をもつ保護者への情報提供のツールとなった。
- ・みやぎ不登校4000人アンケート調査 回答163件
県知事、県教育委員長に提出し、意見交換をすることで不登校課題に取り組む必要性を伝えることができた。NHKのニュースにも取り上げられ、不登校の現状を社会に発信できた。
- ・子どもたちの多様な学びと不登校施策シンポジウム：参加者60名
行政職員や県議会議員、市町村議会議員に教育機会確保法の理解を深める場となった。

●渡中学区WWI(わっしょい渡波委員会)

【目 標】

渡波中学校区(小学校2校、中学校1校)のPTAや民生委員、社会福祉協議会などと「地域の子どもは地域で見守り育てる」を合言葉に、任意団体として地域貢献活動を推進していく。

【構成メンバー】

20名：渡波中学校校長・教頭・教員、渡波小学校校長・教頭、鹿妻小学校校長・教頭、各校PTA会長・顧問、渡波地区民生委員会長、民生員、渡波地区主任児童委員、石巻社会福祉協議会2名、かづま地域食堂、HitoReha2名、こども∞感ぱにー2名

【実施内容】

- ・ 定例会議4回（組織体制づくり、事業計画と実施準備）
- ・ 地域活動サポート： 渡波中学校廃品回収（10月/場所：渡波中学校と渡波中学校区）
- ・ 自主活動：スプラトゥーン大会(10月/場所：渡波中学校)
- ・ 授業サポート：鹿妻小学校4年生 防災マップづくりのための地域散策 4名

【成 果】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、家族の外出自粛や地域行事が中止の中、WWIとしてできることが話し合いを行い、初の主催イベントが実現した。小学校の校長から「これは素晴らしい企画だった。毎年の恒例行事にしていきたい」との声をいただいた。

【エピソード】

- ・ 鹿妻小学校の授業サポートに、渡波小学校のPTA会長が参加。小学校教員らは驚いたが、小学校区を超えたWWIの主旨が伝わった出来事となった。

●石巻の不登校ネットワーク（仮称）

子どもに関する社会課題のひとつである「不登校」は、石巻市でも年々増え続けている。

不登校で苦しむ児童生徒やその保護者が、安心した生活を送るために、石巻市と共に多様な学びについて考え協働で改善できる体制を創出する。

【実施内容】

- ・ 発起人メンバーの声かけ

(2)子育てサポート事業

◆プレーパーク事業

●未就学児あそび場"のびちび"

【目 標】

プレーパークわたのはを拠点に「遊びの大切さ」「プレイワーク」を伝え、また、子育てで孤立した親子を減らす。地域の子どもを見守る当事者となる地域住民を増やす。

環境整備や情報発信、スタッフのスキル向上を行い、子育て中の親子が利用しやすい地域の居場所づくりを行う。

- ・ 開催数 145回
- ・ 来所人数 子ども延2,000名 大人延1,500名 合計 延3,500人 平均10組/回

- ・新規親子30組

【実施内容】

コロナウイルス感染症拡大により、4月から6月上旬まで活動を休止し、7月からオンラインと並行して現場を再開させた。休止期間中は母子の孤立やストレス軽減のために、LINEグループで呼びかけを随時行った。また、小さい地域単位であそび場を実施した。

当初計画したのびちびカフェ、子育てワークショップ、料理教室などの実施は中止となった

- ・開催日時と回数：火・木・金曜日 10：00-14：00 116回
- ・コロナウイルス感染症拡大による休止期間の活動
 - オンラインによる“あそび場”32回（ダンスパーティーや、絵本読み聞かせ、かくれんぼ他）
 - “夜のお話会”10回（保護者を対象）
- ・スタッフ1名～2名配置
- ・環境整備
 - 入り口付近にすべり台や砂遊び道具を設置。未就学児の遊べる場のアピール。
 - 入り口付近にベンチ設置。通りかかった人が、利用しやすいきっかけづくり
- ・保護者サポート
 - 母主催の夏祭りサポート
- ・移動のびちび 3回（場所：二子復興公営住宅、稲井真野、蛇田高玉神社）
 - 二子復興公営住宅：気になる子ども（夜の徘徊や放置）と、コロナ禍で遊びに行けない子どものためのプレーパーク開催の依頼

【成 果】

- ・来所数：子ども延960名(前年比-797名)、大人延617名(前年比-619名)、親子511組
合計1,577名(前年比-1,416名)
 - ①リアル開催では、子どもが思い切り遊べる環境の必要性を保護者が再認識できた
 - ②助け合う仲間と居場所があることで、常連母3名に2人目、3人目を妊娠した
 - ③親子同士の開催時以外に、子どもの預け合いが活発になった
- ・コロナウイルス感染症拡大による休止期間の活動
 - ①コロナ禍でも相談できる機会を作り、助けあえる親同士の関係づくりのサポートができた。
オンラインあそび場 子ども延214名、大人延81名、親子延75組
夜のお話会 大人延28名
 - ②オンライン開催では引っ越した親子が参加し、「新天地で知り合いがいままコロナになり不安だったけど、みんなと会えて心強かった」と、再び関わるきっかけとなった。
 - ③子ども向けのダンスは室内でも運動ができ、絵本の読み聞かせは、お昼寝時間に合わせて実施することで、母親の子育てサポートとなった。
 - ④夜のお話会は、保護者の希望により、次年度から母主催で継続することになった。
- ・環境整備：ベンチに地域のお年寄りが座り、子ども達を眺めることが増えた。
- ・保護者サポート：外出制限のコロナ禍で実施した、手作りで小さなお祭りサポートは、親子の気分転換になった

・移動のびちび

①二子復興公営住宅：実施することで、子どもと地域住民の顔がつながり、声をかけられる関係に発展したという声が聞こえた。

②稲井真野：放課後や、休日に遊ぶことが難しい過疎地域での開催。竹ジャングルジム制作に父親が積極的に参加し、地域住民が集うきっかけとなった。

③蛇田高玉神社：開催場所がわかり易いことで、新規親子の参加が増えた。区長やスポーツ少年団の役員の理解も得たため、今後につながる機会となった。

【利用者エピソード】

- ・コロナ禍で、地域のイベントがなくなる中、母主催の内輪の夏祭りを行った。スイカ割りや、釣り屋さんや、輪投げ屋さんをみんなで協力して開催し、子どもも母親達も満足気だった。母にとっての自己実現の機会作りの大切さを再確認した。
- ・保育所で発達障害の可能性を言われ不安になっている母に、他の母たちが励まし、笑わせたりしていた。他の母からも心配の連絡が入り、「私には、こんなに相談できる人がいると感じて嬉しかった」。遠方に引越す前に「ここがあって救われた」と話していた。
- ・オンラインのびちびでは、子どもや、母による交代制の読み聞かせを実施。読んでもらう機会が少ない母には、癒しの効果が高く好評だった。
- ・オンラインでかくれんぼにチャレンジした。子どもの想像力が素晴らしく大好評だった。
- ・常連の3人兄弟の親子が、お互いの家で「預け合い」を行っていた。
- ・地域住民の一人が、新しく来所した親子との関わりにより元気になった。積極的に会話や遊びに加わり、長縄の回し役までするなど見違えるほどイキイキとし始めた。

【課題】

- ・コロナウイルス感染症拡大により来所数が減少したが、今後は必要な人に情報が届くための広報を再開する。
- ・次年度は、母親主催で開催する日が増えるため、安心だけど緩くなり過ぎない環境づくりの工夫が必要である
- ・外で長時間過ごせるための環境整備が必要

●子育て相談

【目標】

本会の事業すべてにおいて子育て相談を受け入れ、子育て(不登校も含む)で悩む保護者の心のケアを行う。

- ・相談件数 150件

【実施内容】

- ・プレーパークで子どもを遊ばせながらの「ながら相談」
- ・電話（専用電話あり）／面談での相談

【成果】

- ・相談件数 73件（不登校相談含む）
- ・不登校児童生徒をもつ保護者からの相談が増加。困難事例も増えた。

- ・「見立て」を活用し、ほぼ的確に対応やアドバイスができた。
- ・コロナウイルス感染症拡大により、未就学のプレーパークを休止したため、「ながら相談」数が減少した。

【課 題】

- ・子育て相談事業の告知方法

(3)自然体験プログラム事業

◆Ecoキャンプ“自然とともに”

コロナウイルス感染症拡大により実施なし

(4)社会体験プログラムに関する事業

活動なし

(5)前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材育成事業

◆啓発事業

●講師派遣

- ・らいつ移動児童館(子どもセンターらいつ)：1回(2日間)/8月/石巻市
- ・はぴはぴ講座(子どもセンターらいつ)：2回/9月,1月/石巻市
- ・武庫川女子大学授業：1回/10月/オンライン
- ・ミライブラリー：市内高校2校/10,1月
- ・みやぎ地域座談会(宮城県復興支援課)：1回/2月/仙台市
- ・実践振り返り研修会：1回/2月/石巻市
- ・講演会「不登校に関する連携」(フリースペース道)：1回/3月/大崎市

◆情報発信事業

- ・会報誌“だんごむし”：4回発行 各900部
夏号よりメールでの配信を開始(夏、秋、新春号計2,700部の内 郵送1,528部/メール730部)
- ・ブログ：月4~5回配信
- ・SNS(Facebook、Instagram)：週1~2回程度配信

◆人材育成事業

●事業運営スキル向上のためのスタッフ研修

- ・カウンセリング講座(講師 高橋和巳氏)：4回/ オンライン
- ・「見立て8型」基本講座(講師 高橋和巳氏)：1回/オンライン
- ・石巻人事部若手研修：1回/6月/石巻
- ・プレイワーク講座(講師 廣川和紀氏)：1回(2日間)/ 11月/石巻市
- ・プレーパーク研修(研修先 冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク)：1回/3月/仙台市
- ・フリースクール研修(研修先 ビーンズふくしま)：1回/ /3月/福島市

●組織運営のためのスタッフ研修

- ・行動指針・人事評価研修：1回/5月/石巻市/全スタッフ
- ・自治システム講座：1回/8月/石巻市
- ・ファンドレイジングジャパン2020：1回(7日間)/9月/オンライン
- ・知らせる力PJ講座：2回/9月/オンライン
- ・自発の地域づくり講座：1回/11月/オンライン
- ・遺贈寄付入門講座：1回/11月/オンライン

●外部人材育成

- ・ボランティア：計10名/延べ22名
- ・ボラケーション：3回/3名/10,12,1月
- ・石巻西高校1年生インターン：2日間/3名/12月
- ・NPO留学：7回(顔合わせ+受け入れ5回+報告会)/1名/9~3月
- ・復興創生インターン：2名/9~11月/オンライン、石巻市
- ・TEDIC伴走支援：17回/12月~2月/石巻市
- ・らいつ人材育成支援：4回/9~10月/石巻市
- ・にじいろクレヨン事務局研修：3回/1名/7月/石巻市

(6)その他、本会の目的を達成するために必要な事業

◆主たる活動地域内

- ・渡波小学校評議員 定例会議：2回
- ・渡波中学校区協働教育協議会会議：2回
- ・鹿妻小学校クラブ活動サポート「農村クラブ」：3回/鹿妻

◆石巻市内

- ・NPO法人こどもにやさしいまちづくり理事会：6回
- ・らいつコンソーシアム協議委員会議：2回/12,3月
- ・NPO法人にじいろクレヨン理事会：2回/9,12月
- ・いしのまき市民公益連絡会議役員会/総会：11回
- ・パブリックコメントトーク会議 1回/8月
- ・都市計画課委員会：1回/8月
- ・都市計画審議会：2回/10,12月
- ・放課後児童クラブ意見交換会（石巻市福祉部保育課）：1回/9月
- ・湊自治システム打ち合わせ：1回/10月
- ・社会福祉協議会連絡会議：1回/11月

3.事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者	受益者	事業費(円)		
①すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業	プレーパーク事業 ・プレーパークわたのは ・鹿妻プレーパークひがこー ・新規プレーパークサポート	金・土・日曜 水曜 4回	渡波 鹿妻 石巻市内	3名 2名 2名	幼児 ～高校生 延べ3,672人 地域住民	12,199,362		
	フリースクール事業 ・フリースクールぼはっく	火・木曜	鹿妻	3名	延べ967人 (271回)			
	地域・民間団体との連携事業 ・石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会 ・渡中学区WWI ・多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク ・石巻の不登校ネットワーク(仮称)準備	月1回～2回 7回 月1回～2回 1回	石巻市内 石巻市内 宮城県内 石巻市内	1名 2名 2名 1名	-			
	②子育てサポート事業	プレーパーク事業 ・未就学児あそび場(プレわた内) ・オンラインあそび場 ・オンライン夜のお話会 ・移動のびちび 子育て相談	火・木・金曜 随時	渡波 石巻市内	2名 1名		乳幼児 ～大人 延べ 1,989人 (161回) 延102件	3,827,677
	③自然体験プログラム事業	Ecoキャンプ“自然とともに”	コロナにより休止	-	-		-	-
④社会体験プログラム事業	※活動なし	-	-	-	-	-		
⑤前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材	啓発事業 ・講座/研修 ・講演会 情報発信事業 ・会報誌“だんごむし” 4回発行 人材育成事業 ・事業運営スキル向上のための研修 ・組織運営のためのスタッフ研修 ・外部人材育成	通年	宮城県 及び 他県	7名	-	3,104,956		
⑥その他、本会の目的を達成するために必要な事業	主たる活動地域内 ・渡波小学校評議員定例会議 ・渡波中学校区協働教育協議会 ・鹿妻小学校クラブ活動サポート ・都市計画推進委員会 ・らいつコンソーシアム協議委員会 ・NPO法人こどもにやさしいまちづくり理事 ・NPO法人にじいろクレヨン理事 ・いしのまき市民公益活動連絡会議理事	通年 (年20回程度)	石巻 市内	1名 1名 2名 1名 1名 1名 1名 1名	-	805,079		

4. 事業実施体制

(1)会議に関する事項

理事会の開催：5回

(2)運営体制

運営に関わるスタッフは以下の通り

代表理事：田中雅子

常勤スタッフ：4名

非常勤スタッフ：2名

アルバイト：3名

(3)会員

①正会員 14名（前年±0名）

②賛助会員 64名（前年+27名）

※復興創生インターンと、マンスリーサポーター募集のプロジェクトを企画(3ヶ月間)で25名登録

③子ども会員 0名

(4)地域社会や他団体との連携について

石巻市福祉部子育て支援課、石巻市都市計画課、石巻市地域協働課、宮城県東部児童相談所、虐待防止センター、石巻市社会福祉協議会、石巻市立渡波小学校、石巻市鹿妻小学校、石巻市渡波中学校、公益社団法人3.11みらいサポート、特非) ベビースマイル石巻、特非) TEDIC、特非) にじいろクレヨン、特非) 子どもにやさしいまちづくり、(一社) プレーワーカーズ (一社) フリースペースつなぎ、特非) まきばフリースクール、フリースペース道、ふふふはうす など連携団体は多数